

## 12月9日(2019) 学修相談実施報告

来室学生

二回生 男子 一名

計一名

質問内容

二回生

1. キレート適定により水道水や市販の飲料水の硬度を求める実験で、結果をレポートにまとめる際、飲料水のラベルに記載されている内容物の表記をどのように扱ったらよいか。また、水道水ではどうか。

回答内容

二回生

1. 実験結果とラベル表記の数値との対比はした方が良い。上水道の水質検査の結果は、神戸市から公表されていると思うので、調べて、該当する項目があれば、これも実験結果と対比してはどうか、と回答。

## 12月10日(2019) 学修相談実施報告

来室学生

二回生 男子 一名

計一名

質問内容

二回生

1. インターネットで神戸の水道水の水質検査のデータを見つけた。事業者が3社あるが、東灘区では阪神水道のデータでよいか。また、飲料水のラベルの数値も含めてこれらのデータをレポートに書く書き方について、確認したいことがある。

回答内容

二回生

1. 阪神水道のデータでよい。該当する項目として硬度があった。自然災害等がなければ、河川に流入する水質に大きな変動はないと思うので、実験月のデータでなくても、実験日に最も近い月の

データと比較してよいのではないか。ちなみに、学生が実験で得た数値は、公表の数値にほぼ一致していた。レポートにラベルの数値や公表値を引用するときには、まず得られた結果を表にして示し、利用したい参考データはその表の注かまたは別表としてまとめてはどうか、と回答。

硬度に関する実験の質問であったので、ヨーロッパの水道水は硬度が高くて飲用には適さないこと、イギリスでは水道水は飲めるが、湯沸かしにべっとりと湯垢が付くこと(スコットランドは地下水脈が豊富で、水道に良質の水が供給されていて、飲み水には困らない)等を学生と話題にした。

以上